

http://www

全国 R・J グレード部会情報誌

# かしめ

2013年 6月 15日  
8号

発行：全国 R・J グレード部会連絡会

発行責任者：松枝 建次

事務局 東京鉄構工業協同組合

住所：東京都中央区八丁堀 3-9-5

電話：03(5566)1595 FAX:03(5566)1597 E-mail:jimukyoku@tsfa.jp

## 1 ファブとアベノミクス

水野勝也(静岡)

## 2 テツノミクス

三田孝(京都)

## 3 全国 R・J 総会の主催者、来賓等の挨拶

## 総会のフリーディスカッション

# ファブとアベノミクス

水野勝也 静岡県鉄構協同組合 RJ 部会

直接地方のファブリケーターまで直接的な恩恵はまだ来ていないというのが現状です。それでも大胆な金融政策、インフレターゲットの導入におけるデフレ脱却、円安の動きは、物づくりの適正価格への移行、価格安定には追い風となっています。

機動的な財政政策における政府の 2013 年 1 月 15 日、過去 2 番目の規模となる 13兆 1千億円の補正予算は、東北の復興、各地方の耐震等の優先順位に当てはまる地域外では、直接的な恩恵が届くところまでは厳しいであろうと考えます。短期的には補正予算を起爆剤にして東北の復興、整備新幹線、首都高速の耐震・新設、東京都幹線道路脇建物の耐震化等、いくつかのプロジェクトの実行に、円安が追い打ちを掛けることで当面の景気が上向くことを期待します。中長期的には成長戦略の 7 つのテーマの中のクリーン・経済的なエネルギー需給の実現が大きなポイントとなると思います。

高炉・電炉、スクラップの価格、どちらにしても電気料金の問題は、国内ファブの物づくりを左右するうえで大きな要因の一つです。

今後近い時期に、原子力規制委員会における基準の作成・実施が行われ、安全を確認された原子力発電所から随時稼働が行われると思うが、PWR 系と BWR 系の地域での電気料金の格差が中小のファブにどの位影響がでるか少し心配するところではあります。

しかし、長期的に電気料金の安定することが、調達材料の価格の安定、市場の安定につながると考えます。長期的な視野に立って、技術者、プロフェッショナルの目で世の中が判断することを期待します。

エネルギー対策は国策であり国防です。そういう意味においてもエネルギー対策が重要な鍵を握るでしょう。

国家戦略的機能が重要視される部分は日本版 NSC とされるような範囲での判断が大切であると思います。もう少し長期的には、シェールガス等の話まで含め展望を考えるべきであるが、アベノミクスに対してのみ考えれば、アベノミクスはあくまでもきっかけであり、早く正転する経済メカニズムの構築と実行が大切なことでもあります。

『かしめ』は全国 R・J グレード連絡協議会の情報誌です。会員と全国の組合事務局にメール発信しています。記事の投稿をお待ちしています。事務局は東京鉄構工業協同組合です。

# テツノミクス

(アベノミクスをまねて? (^.^))

三田 孝 京都RJ会会長

いよいよ鉄骨も潮目の波が来るかも・・・

しかしながら今一歩 この業界では、仕事量及び単価が上がって来ません。

どうなっているのか？ 大型物件は多くなっているとの事ですが、小規模鉄工所は何ヶ月待てば実感できるのか心配な状況です。

我々も『2本か3本の矢』それとも、もっと技術を評価してもらえる努力が必要と思われま

す。評論家の言うことを信じるのか、政治家の言うことを信じるのか、それとも、我々で考えてアクションを起すのか今一度立ち止まって考えてみる必要があるのでは・・・

また、鉄の歴史は古く、鉄骨の歴史は新しいのです。H型鋼、コラム、皆さんいつ出来たかご存知ですか？また、半自動溶接がいつ出来たかご存知ですか？ まだまだ若いですよ！！

しかしながら鉄は日本の国を発展させました。

私の近くにリベット（かしめ）で造られた大きな橋がありますので、それをご紹介いたしましょう。

## 澁川橋梁（よどがわきょうりょう）



所在地	京都市伏見区 宇治川
長さ	162.4m
幅	9.75m
建設	1928年4月1日 ～1928年10月16日

## 鋼材

この時代、この巨大橋梁が必要とする長さ<sup>①</sup>と厚さを備えた大型鋼材は日本国内に市中在庫が存在しなかった。そのため、部材調達を請け負った浅野物産とアメリカ有数の大手製鋼メーカーベスレーム・スチールが東京に設けていた支店の連携によって、全体の83パーセントにあたる約1,500tの鋼材の注文書をアメリカのベスレーム・スチール社本社へ打電、可能な限り速く国内で入手が不可能な部材を調達する手配を行った。

## 工事

現場での組み立て・橋台の施工、そして架設全般を担当したのは、この種の架橋工事について経験の豊富な大林組であった。

橋桁だけで1,810t、軌条や枕木を合わせて約2,000t、通過する60t級電車6両編成2本分の荷重720tを入れると総計2,700tもの重量になる。

橋桁本体を組み上げる工程においては、効率化を図って大林組が設計したゴライアスクレーン（門型自走式クレーン）が導入され、威力を発揮した。

左岸へ大型ゴライアスクレーンを移動してそこから中央へ向かって順に上弦材を組み立てた後、クレーンを右岸へ移動、そこから再度中央へ向けて上弦材を組み立て、最後に中央の水平な上弦材を組み付けることとなったのである。

この組み立て作業においては合計73,094本のリベットが使用された。それらの鉸鉸作業はスケジュールの関係で夏の炎天下での実施となったが、川崎造船所から派遣された工員30名がリベット打ち5組と穿孔機2組に分かれて従事し、約60日におよぶ作業日程で鉸鉸作業を全て完了した。

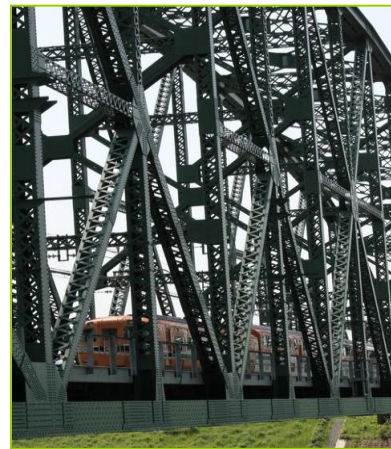
架設当時の最新技術を惜しみなく投入し、人智を尽くして工期短縮のための努力が重ねられた結果、総工費83万9千23円95銭を費やした本橋梁は、約半年をかけて1928年10月16日に完成した。それは、工事に関わったありとあらゆる人々の努力の賜であったと言える。

## 構造

鋼材をリベットで接合して組み立てたトラス桁を、兩岸に埋設された鉄筋コンクリート製橋台上に架設する。本橋梁では、長さ46フィート(14.02m)幅21フィート(6.4m)、壁厚2フィート6インチ(762mm)の箱形鉄筋コンクリート製基礎を埋設して橋台としている。



2001（平成13年）年に登録有形文化財に指定され、そのプレートは、右岸、下り電車から見て左側にあります。



実に美しい。この角度から見ると、鋼鉄の林のように見える。

※ 澗川橋梁については Wikipedia より抜粋させて頂きました

最後にひと

私は、いつもこの橋の横を車で通っています。こんなすばらしい技術が85年も前に生かされていた事に感動し、また短納期で完成したことに驚きました。

私たちの仕事は少なくなるかも・・・と思う反面、なくなる事もないと思います。

50年 100年 残る鉄骨を造りたいですね。



第10回全国R・Jグレード部会連絡会通常総会の主催者、来賓等の挨拶を掲載しました。

(主催者挨拶)

松枝 建次 会長(大阪府)

はじめに、この全国R・Jグレード部会総会開催するにあたって決して忘れてはならないのは2年前の東日本大震災です。地震の発生した3月11日に私たちはこの大阪の地で総会を開催していました。司会の三田さんが被災情報をアナウンスしながら総会を進めたことを昨日のこのように思い出されます。みなさんと被災地の1日も早い復興を願いたいと思います。

全国R・Jグレード部会総会に御参加いただき大変ありがとうございます。昨年暮れ政権が代わり、景気が良くなってきたと言われていました。株が上がってきて、世間ではアベノミクス、アベノミクスと言われ聞くだけで景気が良くなっていくのではないのかなと思われています。来年度、再来年度この二年間は間違いなく良くなっていくだろうと思います。鉄骨屋さんは2年で貯めて10年で食い尽くすと言われていました。我々はその様なことにならないと思います。R・Jは叩いてなんぼの世界で生きているわけではないのでこの不景気の中でも生きていけるのです。



松枝 全国R・J部会会長

今回この総会が10回になります。東京、大阪、京都が立ち上げた会ですが、一時期13会員になりました。しかし現在8会員に減りました。この辺でこのR・Jグレード部会どうするのか皆さんと十分に話し合っていかなければならない時期と思います。発起人がすべてMグレードになって行く。確かに社長の心構えで会社を大きくして社員も増え必然的にMグレードになってもおかしくない。ただなんぼMになっても技術だけは変わってはならないと思います。したがって、この会で勉強会、活動をしっかりやって行きたいと思います。

適正なグレード指定させることが我々の会の究極的な目標です。全構協は何もしてくれないので我々が活動してそのことを実現させるためにこの会をもっともっと発展させていく必要が有ります。今後ともこの会の存在意義を考え高めていくように皆さんとともに頑張りたいと思います。

(来賓あいさつ)

(社)全国鐵構工業協会副会長 光村 哲也 氏(広島県)

みなさんこんにちは。しょっぱなから全構協は何もしてくれないと言われましたが、まずもって第10回の通常総会が開かれたことおめでとうございます。日頃から全構協の活動にご協力いただき感謝申し上げます。全構協の近況を会長さんからみなさんに知らせてほしいと言うことでしたのでお伝えいたします。この4月から公益法人から一般社団法人に移行します。会の意思決定は理事会で決めるのですがこれまで9支部長と学識経験者等が理事として参加してきましたが、今後は身内だけで理事会を構成することになります。全構協にはこれまで蓄えた皆さんのお金が有ります。このお金を共益の為、構成員の為に使っていく、10年から15年になると思いますがこれを教育や技術、皆さんの為になることで使っていく活動が新たに始まります。



全構協 副会長 光村 哲也氏

先程会長さんが好景気は2年は続くと言っておりましたが、2年続くかどうかはわかりませんがこの夏以降1年は確実に続くと思います。全国の動きとすれば加工単価が低くなっていてどこの地域に行っても値戻しをしようとしています。全構協が協定して先行して価格を上げていこうと言うことはできませんので、皆さんの声で自主的に上げて行ってほしい。価格をいくらにしようと言っても自分が交渉する立場に立って、その価格を必ず維持するんだと言う強い意志がないと価格は上がって行きませんので、ぜひとも皆さん頑張って行ってほしい。

私が副会長を受けた経緯を述べさせていただきますと、3年前ですが副会長を受けさせていただきました。その時会員の皆さんから全構協に入ってもメリットがないと言う声が多く聞かれました。いまでも皆さんもその様に思っておられるかまじれません。私は9年前広島県の理事長をやっていました。その時会員が85名いましたが会員すべて一軒一軒訪ねて行き、その実情をつぶさに見ましたら自分の思っていたよりも零細な会社が多くありました。全構協は2,228社(平成23年2月現在)ありますが、その多くが零細企業です。構成員の内R・Jが704社、未認定が472社両方で52.8%になります。全構協の会議で話されている中身をみると比較的規模の大きい会社の方が地域の代表で来られたりして話をされているわけです。そうすると、R・Jや未認定の会員の声が届かないのです。協会は大手の会社ばかりではありません。私は、構成員の過半数を占める下位グレードや未認定の会員の声を取り上げなければならないと思っています。私は今後も弱小の皆さんの声を全構協の中に届けて行きたいと思っています。

最後に全国R・Jグレード部会が益々の発展することを祈念しています。

(来賓あいさつ)

大阪府鉄構建設業協同組合 理事長 元古 典雄

みなさんこんにちは。今日は全国R・Jグレード部会第10回総会に全国から集まっていたき誠に御苦労さんです。ちょうど2年前第8回総会を大阪で開催された時も私出席させていただきましたが、その時3.11東日本大震災が起きた日でありました。その時も被災地の東日本から来られている方がおられて家族の安否や情報を聞きながら総会を開催したことを覚えています。そして心配をしながら総会を終えて帰って行かれたと思います。この2年間非常に苦労されたと思いますが、改めてお見舞い申し上げます。

震災の復興がなかなか進まない状況になっておりますが、その中で少しでも防災、災害に強い街づくりをして復興していったらいいなと思います。



大阪府鉄構建設業協同組合 理事長 元古 典雄氏

去年政権が代わり安倍政権が誕生しました。アベノミクスの三本の矢金融政策、財政、企業の投資を促進するよう政策を進めています。おかげで、少しムード的に良くなってきている雰囲気を感じられます。いままでのデフレを少しでも脱却するよう強くすすめていますので、株が上がり円安になってきて、輸出産業が息を吹き返してきた。自動車産業ではボーナスを満額出すようです。直接我々とは関係ないですが、日本の企業が元気になって行けば我々も良くなっていくのではないかと思います。そのような意味で今我々が頑張っていかなければならないのではと考えています。ただ円安で材料代が上がってきています。そして電気代も上がる逆風もありますがそれを踏まえて乗り越えて行く、元気を出していけばよいのではないかと思います。

ゼネコンさんの方は、今までの仕事で安い仕事を取っていて値上がりが始まって非常に厳しい状態になっています。我々に非常にきつい指値が出てくると思いますが、そこを最低必要なコストを粘り強く説明してそれを頂いて行くように結束して頑張っていかなければならないと思います。そうしなければ我々の業界は生き残って行かないのではないかと思います。

R・J会の皆さんは地域に密着され、各企業にキメ細かに密着され営業されているところが多いので過当競争ではなく仕事をきめ細かに取られて行っている様に思われますのでさらにそのところを頑張ってください益々発展していただきたいと思います。

[フリーディスカッション]

司会 三田 副会長(京都府)

○関東の報告

金谷さん(東京都)

関東は金物やちょっとした鉄骨が多いですが、仕事の量は結構多いです。ここ2~3ヶ月夏まではかなり量は有ります。M、Hはかなり忙しく単価が安いものは断っているようです。おかげさまで仕事量は増えています。

司会



平均してR・Jは仕事量があるということですね。単価もそこそこ上がってきていますか？

金谷さん

なるべく上げるようにしています。

司会

関東は明るい状況になりつつあるということですね。

金谷さん

そうです。



#### ○近畿の報告

尾崎さん(大阪府)

ジャーナルを読んでいると景気がだいぶ上がってきているようですが、大阪を見てみるとなんかもう一つぱっとしないような感じがします。何とかくぐっている状況です。単価の方も上がるか上がらない感じで、加工賃を見ると材料が上がっていますので逆にダウンしている様な状況です。H鋼も1万円以上あがってきていますので、その狭間をうまくいかにとらえんといかんと思います。仕事は老人ホーム関係とショッピングセンターが中心です。

#### ○中部の報告

高橋さん(三重県)

三重県は相変わらず北部が強くて南部が弱い中勢地区はその中間ということですね。これは昔からこのような状況になっています。私は中勢地区ですが仕事は2月、3月までは順調に推移していたのですが3月半ばから4月にかけて薄くなってきています。四日市等北部は順調に推移しています。

司会

単価はどうですか。

高橋さん

ちょっと上がり気味と聞いています。

司会

皆さんの報告を聞くと少し光が射してきたということですね。

先程全構協の光村副会長がお話されましたが、じっとしているのではなく理事会や支部会等で意見を述べてそれを東京に持ちあげて行っていただきたいと思います。R・J会自らアクションを起こして行っていただきたい。京都もそうですがここ何年かは会員がだいぶ減ってきています。なぜ減少しているのか、また会員を増やす方法が有るのかそのへんのところを景気動向も含めてジャーナルの秋田さんから話していただきたい。

## ○鋼構ジャーナル秋田記者の報告

今、司会の方からえらい難しい質問を頂きましたが、まず景気の話からさせていただきますと、皆さんも肌で感じられているのでしょうかと思いますが、今年来年は全体的にいい環境になるであろう言われています。関東地区では日本のファブだけでは賄えられない位の鉄骨量が出てくると予想されています。それはHとかMだけではなく必ずR・Jや未認定の方にも波及してきます。それから、先程松枝会長から2年で儲けて10年で吐き出すと言う話が有りましたが、そこで終るのではなくH,Mと違いR・Jは関係ないよ、それがR・Jの強みであるとおっしゃられていましたが、おっしゃる通りだと思います。鉄骨需要が何百万トンあるとか言われますがR・Jの方にはそれほど関係ありません。R・Jの方は鉄骨だけではないところで活躍されていますのであまり鉄骨需要を気にせず、皆さんの範疇の中で頑張っていたいただきたいと思います。

司会からなぜ会員が減っているのかと質問されましたが、光村副会長もおられますが全構協の存在価値、その下の組合の存在価値が、認定とる為のだけのものになってしまっている。会費を払ってそのメリットを享受できるのか・・・と言うことに疑問を持っている方が多いので、それが会に入ってこない、会を抜けて行く原因の一つだろうと思います。もう一つは経営安定されていない業界ですからこの何年かは淘汰されて減って行く。この二つ理由で会員がどんどん減って行っているのではないのでしょうか。これは単純な話です。このあたりを解決されればなんぼでも増えて行くと思います。

R・J部会も同様に会の価値観をどのように見出していくのかその様な事業を行っていくのか、これが一番重要なことではないでしょうか。

司会

大変参考になるお話ありがとうございました。みなさんが地元に戻って周りのアウトサイダーを1社でも増やして、全構協に物を言える会にしたいと思いますので宜しくお願いいたします。

松田さん(京都府)

先程全構協の副会長に質問ですが、広島はR・J部会が発足する予定有りますか。

光村副会長

声をかけていますがなかなか余裕が有りません。即戦力がない。総会に出るのが精いっぱいと言うところが多い。広島に帰りましてこの様な会が有ることを皆さんに伝えます。この会も東京とか大阪で役員会をやるのではなく、地方に行って役員会をやって地元のR・Jの皆さんを呼んでディスカッションを行えば広がって行くのではないかと思います。

司会

ありがとうございます。そのこともいろいろ考えています。今日のお話を胸の内に入れて役員会で具体的に検討したいと思います。

本日は大変ありがとうございました。これで総会並びにフリーディスカッションを終わります。

編集後記 第10回通常総会から3か月が経過しました。この間の経済状況は大きく変化してきました。為替も円が1ドル100円を突破したり、日経平均株価が13,000円を回復したり、これはすべてアベノミクスの効果でしょうか。一方実体経済は何も変わっていないと唱える学者もいます。自動車等一部の輸出産業が円安効果で大きく業績を伸ばしていますが、内需がそれほど伸びていないのです。川上の大企業が潤っていますが、その波及効果がまだ川下の中小企業に波及していないのです。そんな中でも全国R・Jグレードの仲間は、地域密着で地味ながら頑張っています。光村全構協副会長の挨拶のなかで「全構協の構成員の過半数のR・Jグレードや未認定の仲間の声を届ける」ために頑張っていきたいと決意を述べられました。大変勇気付けられました。「かしめ」も全国のR・Jグレードの皆さんの声を届けるために頑張っていきます。